

【アゼルバイジャン経済トピック第 124 号】

在アゼルバイジャン日本大使館

2023 年 1 月 26 日

アゼルバイジャンへの入国者数 ～コロナ禍からの回復～

アゼルバイジャンでは、コロナ関連水際規制は一応継続中ですが、日常生活での規制は昨年の早い段階でほぼ撤廃され、誰もマスクは着用せず、にもかかわらず新規感染者数は数十人、死亡者数 1 ケタという状況です。

このような中、国家国境庁によると昨年、世界 178 か国から 160 万人の外国人がアゼルバイジャンに入国しました。前年からは倍増で、コロナ禍前の入国者数ピーク(2019 年、317 万人)の半分まで戻ったこととなります。国別ではロシア(45 万人)、トルコ(31 万人)、イラン(17 万人)、サウジアラビア(10 万人)の順。湾岸諸国からの入国者数が前年比 2.3 倍と急増している点は、当地で見かける中東の方が増えているなという実感と合致します。

アゼルバイジャン政府は観光誘致戦略の本格的展開を再開しました。また、本年は故ハイダル・アリエフ前大統領の生誕 100 周年に当たることから、「ハイダル・アリエフ年」として様々な行事が計画されています。

当国が注力している国際会議・スポーツイベント等の開催についても本年は目白押しです。例年の大規模展示会であるバクー・エネルギーフォーラム(6 月 1～2 日)や、当地では 50 年振りの第 74 回国際宇宙会議(10 月 2～6 日)、スポーツ分野では F1 グランプリ(4 月 28～30 日)、柔道グランドスラム(9 月 22～24 日)、テコンドーと射撃の世界選手権、トランポリンや射撃のワールドカップなどが開催予定です。

これらの取組により、本年の当国入国者数が記録を更新する可能性もあります。

日本からの渡航者(2019 年、6 千人)も観光、ビジネス双方で回復するよう、当館としてもアゼルバイジャンの PR、当国関連ビジネスの促進に努めて参ります。

(以上)